


配慮の視点	生態系の多様性への配慮	配慮項目	生き物の生息・生育空間となる多様な自然とそのつながりの保全・創出
配慮事項	豊かな土壌の保全・回復・創出		
配慮事例	盛土の土壌改良		
内容	<p>●盛土の土壌改良</p> <p>【解説】</p> <p>盛土でできた法面に早期に植生を回復させることが、野生生物の生息・生育環境及び移動空間の確保につながります。植物の生育する土壌環境として、基盤土壌に各種土壌改良資材と有機物を混合し、植物に必要な養分を肥料として供給することで、植物の生育に適する土壌環境をすみやかに造成できます。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>① 土壌改良剤には以下のものがあり、地中停滞水土壌、酸素不足土壌、団結土壌などの改良に用います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有機質系……泥炭、パルプ、塵芥、糞尿などの加工物 ・ 無機質系……特殊鉱物の加工物 ・ 合成高分系……ウレタンなどの加工物 <p>② 肥料には、石灰質、ケイ酸質、苦土、無機質、リン酸質などがあります。</p> <p>③ その他の措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リッパーによる引掻き……土壌を膨軟にします。 ・ 発破使用によるフカシ…… 〃 ・ 粘土均し……保水性の悪い土壌の改良 		
	 <p>出典：2</p>	<p>【場所】 兵庫県 北近畿豊岡自動車道</p> <p>【環境配慮の内容と方法、工法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エコロードを整備することを目的に、法面緑化計画を策定した。 ・ 客土として用いる土壌は基本的に表土または腐植土を用いることとしたが、これが不足する場合は有機質系土壌改良資材（バーク堆肥等）をあらかじめ混合して利用した。 	
留意点			
参考資料	<p>1 「のり面緑化の最先端」小橋澄治/村井宏編 ソフトサイエンス社</p> <p>2 「北近畿豊岡自動車道エコロード検討委員会報告書」建設省近畿地方建設局 豊岡工事事務所</p>		